

令和6年度きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会 【高等学校・特別支援学校の部】 まとめ

日 時：令和6年10月1日（水）13:30～15:30

実施形態：オンライン 参加者：62名

テーマ：「学校運営協議会の可能性 ～社会に開かれた教育課程の実現に向けて～」

講演「コミュニティ・スクールにおけるコーディネーターの重要性」

文部科学省CSマイスター

利府町文化交流センター「リフノス」センター長 野澤 令照 氏

○コーディネーターについて

- ・地域学校協働活動推進のキーパーソン
- ・地域住民等の中から、地域と学校の橋渡し役として活動する人
- ・学校と地域のつなぎ役となり、連携による多様な活動を進める

○コーディネーターの学校運営協議会委員としての役割

- ・目的、目標を共有したうえでの地域学校協働活動の推進
- ・地域を理解したコーディネーターによる学校運営への情報提供

○コーディネーターとの連携による効果

- ・授業のねらいに適した講師、サポーターを確保できる
- ・教員は生徒の指導に専念できる
- ・地域をよく知るコーディネーターの調整により、協働学習が効果的に進められる

○コーディネーターとの連携で必要と考えられる支援策

【学校】・コーディネーターも学校関係者の一員であることの認知

- ・教職員との連携、信頼関係の構築
- ・教職員には、学習がより効果的になる地域学校協働活動への理解、啓発
- ・校内での居場所、活動拠点の工夫

【行政】・学校教育部門と社会教育部門との連携

- ・予算の措置
- ・広報、周知の支援
- ・研修の実施

○学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進

- ・地域と学校の協働による授業づくりで、社会に開かれた教育課程の実現
- ・地域協働による学校づくりを可能とする『学校運営協議会』の重要性を認識する
- ・学校運営協議会委員の人選の重要性、そして役割を理解する

○地域による学校運営参画のステージ

- ・教育目標や学校課題の共有
 - ・より子ども、教員に寄り添った視点
 - ・自由に意見が交わせる空気感
 - ・学校運営参画の4段階
- 1 参加段階 2 受動的段階 3 能動的段階 4 協働的段階

○地域が地域の教育をデザイン

コミュニティ・スクールは地域オリジナルしかない

令和6年度きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会 【高等学校・特別支援学校の部】 まとめ

日 時：令和6年10月1日（水）13:30～15:30

実施形態：オンライン 参加者：62名

テーマ：「学校運営協議会の可能性 ～社会に開かれた教育課程の実現に向けて～」

発表者：和歌山県立笠田高等学校 校長 野川 景子

「学校も地域もいきいき元気に！～コミスクでつながる学び～」

○コミスクを活用して地域の力を活かした学校経営

- ・学校も地域もいきいき元気に
- ・地域で働き、地域で生活する職業人の育成を

○教育課程における連携・協働

- ・商業科「課題研究」：認知症カフェ「まったりcafé」、笠高生パソコン教室in笠田小学校 等
- ・総合的な探究の時間：2学年「地域の防災・減災～高校生ができること」

○生徒の主体的な活動での連携・協働

ボランティア活動を単位日程

NPO法人「JMT大作戦実行委員会」との連携、社会福祉協議会との連携

公民館サークル「もぐもぐ」との連携、地域の小学校との連携

○地域との連携・協働

ボランティア：JMT大作戦実行委員会、社会福祉協議会、公民館サークル「もぐもぐ」 等

学校行事：文化祭での餅つき・餅まき 等

○組織的で持続可能な活動へ

学校運営協議会での熟議 → 教育活動協働 → 学校評価 → 目的や目標の再設定

発表者：和歌山県立向陽高等学校 教頭 武野 宗睦

「生徒が主役で生徒が輝く学校に」

○コミュニティ・スクールで実現したいこと（校長のビジョン）

向陽高校を、「生徒が中心」という視点で教育活動を展開し、「生徒たちが輝く学校」にする

経験豊富な学校運営協議会の委員の方々に、学校評価の集計結果や授業参観、生徒たちとの意見交流を通して、学習環境や等身大の生徒を見てもらい、学校運営に積極的に参画してもらう

○教育課程とのつながり

- ・国際交流の充実
姉妹校との交流、海外の高校の学校訪問、高校生の短期留学
- ・キャリア教育の充実
進学のためだけでなく、自分がこれから生きていく社会とどうつながるかに重点を置く

○学校運営協議会委員と生徒の意見交流会

- ・R5 高校生徒会役員との意見交流
テーマ：校則全般、制服、学校行事
- ・R5 中学3年生生徒会役員とのパネルディスカッション
テーマ：「これまで」と「これから」自分編・勉強編
「向陽生」と言われることについて
- ・R6 高校生徒会役員との意見交流
テーマ：制服、部活着下校、集会のオンライン化

令和6年度きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会 【高等学校・特別支援学校の部】 まとめ

日 時：令和6年10月1日（水）13:30～15:30

実施形態：オンライン 参加者：62名

テーマ：「学校運営協議会の可能性 ～社会に開かれた教育課程の実現に向けて～」

発表者：和歌山県立みはま支援学校 校長 岡 潔 様

「自分らしく生きる 豊かに生きる ～美浜町（ちいき）で育つ みはまの子～」

○コミュニティ・スクールで実現したいこと

- ・認められた経験を通して、「自分は自分でいいんだ」という気持ちを育てたい
- ・卒業後も、よりよい生活を送ろうとする意欲と態度を育みたい

○地域⇄学校（知ってもらふ、学びの発信、地域貢献、地域からの学び）

- ・地域に発信
公民館との連携：作品展示、生徒が講師になった「工作教室」開催
- ・地域で育つ
学びの発信：保育所での読み聞かせ、上記公民館での講座
地域貢献：生徒提案の松林の清掃活動
- ・地域から学ぶ
学校運営協議会委員さんから：新しい働き方を学ぶ
役場の職員さんから：煙樹ヶ浜・松林についての出張講座（松林の清掃活動と関連）
美浜町文化協会「ワクワクキャラバン隊」さんから：入院生へのオカリナコンサート

⇒学校運営協議会委員さんと学校が、お互いに取組の提案をし合う関係になっている

○めざすゴール

「自分らしく生きる 豊かに生きる」子どもを育てる

（地域の方とのふれあう経験、人とのつながりの中で育つ経験）